『パン種に用心しなさい』（マタイの福音書 16 章 1-12 節）2021.2.7.

＜はじめに＞ これからどうなるのか、どうするのか、と論じるとき、エビデンスが求められます。パリサイ人とサドカイ人は、自分たちとは反対の厳しいことを語るイエスが神から遣わされた者かを探ろうと近づきます。天からのしるしとは、神の子・救い主である顕著な証拠・出来事です。

Ⅰ　しるしを見せて(1-4)

①パリサイ人とサドカイ人

彼らは共にユダヤ人議会でのグループです。パリサイ人は律法とともに言い伝えも厳格に守り行い、復活や御使いを信じています。かたやサドカイ人はモーセ五書にのみ権威を認めていて、死後のいのちも認めず、当時の実力者・富裕者の多くが属しています

②試そうと近づく

本来、信仰・実践・政策で一致せず、議会で勢力を張り合う二派が、結託してイエスに近づいたのは、共通する目的があったからです。それは何ですか。イエスを試そうとする彼らは、どんなことを知りたかったのでしょう。彼らは知ってどうしたいのでしょうか。

③しるしを求める理由(2-4)

空を注意深く観察すると、先の天気の移り変わりが予想できます(2-3)。しるしを求めるのは、既存の証拠では満足しないからです。この世界に神がおられ、働いておられるしるしは既に与えられています(4)。それを認めない頑迷さはしるしを与えられても信じません。

Ⅱ　パン種にご用心(5-12)

①イエスの警告(5-8)

イエス一行は向こう岸に渡ります。7 つのパンで 4000 人を満たした奇跡(15:32-39)の地方です。イエスは弟子にどんな警告を与え(6)、彼らはそれをどう受け止めましたか(7)。彼らがそう受け取ったのは、なぜでしょう。イエスは彼らが誤解しているのに気づかれます。

②覚えていないのですか(9-11)

イエスは先に行われた 2 度のパンの奇跡を弟子たちに思い起こさせて、何を分からせようとしたのでしょうか。パンの有無よりももっと大切なことに目を開かせるためです。主の御業の内容や効果以上に、私たちが見落としてはならないことがあります。

③パン種は教え(12)

イエスはパン種を神の国と福音の拡大の比喩にも使われています(13:33)が、ここでは影響力の大きさの比喩です。パリサイ人・サドカイ人のしるしを求める姿は、実は自分の立場・理解・納得に合致するもののみを受け入れる、信仰とは相反するものです。

Ⅲ　しるしを見る目

①ヨナのしるし(4⇒12:38-42)

かつてパリサイ人は律法学者とともに同じ願いをイエスに投げ、そこでもヨナのしるしを示されます。ヨナの厳しいメッセージでニネベの人々は悔い改めました。イエスはヨナと自分を重ねて、何を示されたのでしょう。イエスがこの世に来られた目的は何だと思いますか。

②時のしるし(3)

しるしとは証拠としての奇跡(1 欄外注)で、証拠は事実で過去を指します。世はイエスを「どこから来たのか」と過去から今を見ようとします。イエスが示したいのは、これからどうなるのか、神は時の所有者・支配者で、この方がこれから何をなさるかに注目すべきです。

③主を見る(12)

パリサイ人・サドカイ人の教えは神由来ではあっても、神よりも自分を正しいとする傾向が顕著でした。これをイエスは偽善と明言されています(ルカ 12:1)。イエスは、過去の御業を通して、全てを治められる主は生きておられることへと目を開かせようとされています。

＜おわりに＞ 時代は混沌として、先が見通せない状況ですが、私たちはこの中に生きておられる主を見出しているでしょうか。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる」(4:4)と主は言われます。神のことばを一つ一つ味わっていますか。（H.M.）